

第13回世界核医学会 印象記

外山 宏
Toyama Hiroshi

2022年9月7日～11日京都、9月12日～13日金沢（Post Congress Symposium）にて第13回世界核医学会（13th Congress of The World Federation of Nuclear Medicine and Biology）が開催されました。1974年に東京・京都で第1回世界核医学会開催からほぼ半世紀後の日本開催として、実行委員一同意気込んで約4年間、準備を行ってきました。しかし2019年11月中国武漢で発症以来、全世界的に猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症は約3年が経過しましたが、収まる気配がなく、大きな影響がありました。8月に第7波のピークを迎えたこともあり、以前のような現地開催のみの計画は断念し、現地での講演に加えて、演者が来場できない場合は、ライブ配信、あるいはMP4動画ファイルをあらかじめ送っていただき上映、議論を行う場合はその時だけZoomで現地と接続する方式としました。近年学会、研究会は同様のスタイルが定着しており、運営は比較的手際よく行われ、大きな混乱はなかったと思います。学会終了後の10月3日～11月30日にオンデマンド配信を行い、現地に来られなかった方や、聞き逃した発表を視聴できるようにしました。筆者は国立がん研究センター東病院・日本アイソトープ協会 藤井博史先生と共に、副大会長のお役目をいただきました。2021年名古屋での第61回日本核医学会総会では、大会長として多忙で多くのご挨拶をさせていただきましたが、今回は副大会長で比較的のんびりと学会を楽しめるつもりでおりました。しかし直前に絹谷清剛大会長が体調不良のため大会をご欠席されることになり、急遽藤井副大会長と共に、代理で多くのご挨拶や座長をさせていただ

きました。その任務をこなすのに集中したため、学術的な視点で学会に十分参加できたとは言えませんので、実行委員として学会の印象をご報告させていただきます。

パンデミックで入国制限、日本国内でも出張制限が続いている中、75か国から参加がありました（表1）。その中の43か国はWeb参加のみでした。日本核医学会・日本核医学技術学会の参加者を併せて現地参加1112人、Web参加1038人、合計2150人の参加がありました。第12回世界核医学会（メルボルン、オーストラリア）は78か国から約2000人、コロナが落ち着いていた2021年日本核医学会・日本核医学技術学会（名古屋）の参加者は1844人（現地参加985人、Web参加859人）と比べても、非常に多くの参加者があったと考えます。基本的に海外から参加する人はすべての国にVISAの申請、取得が必要であり、国の基準も刻々と変化しました。粘り強くご対応いただきました運営事務局のコンベンションリンケージさんには敬意を表します。

日本以外の地区別ではアジアからの参加が最も多く、ヨーロッパ、北米、アフリカ、オセアニア、中東、南米の順でした。

ご参加いただきました皆様のみでなく、Web参加を含めて参加を呼びかけていただきました各国、各施設の代表の皆様にも深く感謝いたします。

学会前日からアジアオセアニア核医学会（AOCNMB、松田博史大会長）、東アジア核医学会（EANM、Yaming Li大会長）も2日間開催されました。日中核医学交流事業で近年、日本核医学会に多

表 1 世界核医学会, 日本核医学会・日本核医学技術学会の地域別参加国, 現地 /Web の参加人数一覧

地域 (国数)	国名	参加者数 (現地 /Web)
アフリカ (17)	アルジェリア, ブルキナファソ, カメルーン, コートジボワール, エジプト, エチオピア, ガーナ, ケニア, マダガスカル, マリ共和国, モーリシャス, モロッコ, セネガル, 南アフリカ, タンザニア, チュニジア, ザンビア	30 (10/20)
日本 (上段:世界核, 下段:日核/日核技)		617 (389/228) 1171 (610/561)
アジア (日本以外) (21)	バングラデシュ, ブルネイ, カンボジア, 中国, 香港, インド, インドネシア, 韓国, マカオ, マレーシア, モンゴル, ミャンマー, ネパール, パキスタン, フィリピン, シンガポール, スリランカ, 台湾, タイ王国, ウズベキスタン, ベトナム	168 (34/134)
オセアニア (3)	オーストラリア, フィジー, ニューージーランド	23 (14/9)
ヨーロッパ (18)	アルバニア, オーストリア, ベルギー, クロアチア, チェコ, デンマーク, フィンランド, フランス, ドイツ, ギリシャ, イタリア, オランダ, ポーランド, ポルトガル, ロシア, スペイン, スイス, 英国	67 (28/39)
中東 (8)	アフガニスタン, イラン, イラク, イスラエル, ヨルダン, クウエート, オマーン, サウジアラビア	14 (2/12)
北米 (2)	カナダ, 米国	48 (21/27)
南米 (5)	アルゼンチン, ボリビア, チリ, コロンビア, メキシコ	12 (4/8)

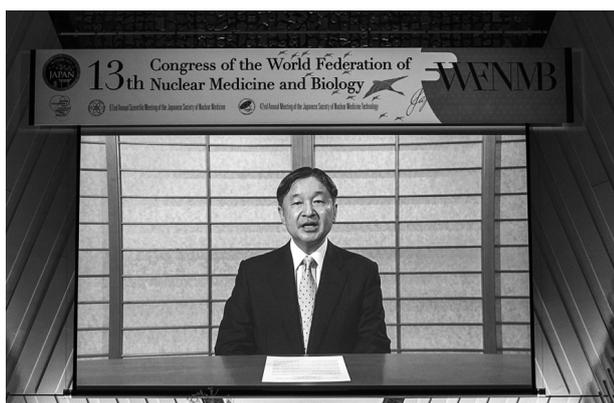


図 1 天皇陛下のおことばのビデオメッセージ



図 2 田中耕一先生への感謝状の授与式

くご参加いただいていた中国からは、ゼロコロナ政策のため Web 参加中心で、現地参加がほとんどなかったのは残念でした。学会初日には、内用療法の学会 (WARMTH/ICRT), アジア核医学会 (ARCCNM), アフリカ核医学会 (AANM) の分科会が並行して開催されました。午前中に展示会場がオープンとなり、夕方には京都大学核医学グループによる優雅なクラシック音楽の演奏の中、Pre-Opening Ceremony が開催されました。2日目の午前中には Opening Ceremony が開催され、天皇陛下から英語のビデオメッセージをいただきました (図 1)。当日のビデオとおことばは宮内庁のホームページに掲載されています ([https://www.kunaicho.go.jp/page/](https://www.kunaicho.go.jp/page/okotoba/detail/90)

okotoba/detail/90)。

引き続き行われました Keynote Lecture では、ノーベル化学賞受賞者の鳥津製作所 田中耕一先生より、“Contribution to early detection of Alzheimer’s disease using analytical and medical technologies” をテーマにご自身が開発された質量分析法でアルツハイマー病の早期診断に対するチャレンジについて熱いお話をお聞きし、筆者も大会長の代理として司会を担当させていただきました (図 2)。その他、Plenary Lecture, Symposium, Read with Experts, WHO-WFNMB session, IAEA Session, International Leadership Session 等様々なセッションで、内外のエキスパートにより核医学のトピックスである認知症, 内用療法 (セラノステイ



図3 祇園祭，鷹山保存会によるお囃子の演奏

クス)，AI等について発表，ディスカッションが行われました。一般演題はE-Posterで行われました。幸い今回は新型コロナの感染対策を行いながら，Gala Dinnerが開催できました。大野和子先生ご推薦の祇園祭，鷹山保存会による華やかなお囃子の演奏が行われました（図3）。久しぶりにお会いする内外の旧友と楽しくご歓談する姿があちこちで見られました。最終日のClosing Ceremonyでは，近畿大学石井一成プログラム委員長から，学会のハイライトが紹介されました。次回の2026年，南米のコロンビア



図4 閉会式後の記念写真

での再会を誓って無事盛況に終了しました。最後は絹谷大会長のパネルと共に，実行委員，海外の皆様と記念撮影（図4）を行って終了しました。翌日からの金沢でのポストコンgresには，残念ながら筆者は参加できませんでしたが，海外から約40名，国内の県外から約15名の皆様にご参加いただき，絹谷大会長のご挨拶もあり，盛況であったとお聞きしました。

（藤田医科大学 医学部 放射線医学）